

法思想史Ⅰ

科目ナンバリング FUL-207

選択 2単位

長谷川 陽子

1. 授業の概要(ねらい)

西洋法思想の歴史的流れを、各思想家が展開した理論を中心に概観します。人間の営為にとって、法とはどのようなものであり、法を用いて人は何をしようとしていたのかを考えていきます。講義で扱う法思想は、当時の哲学・宗教・科学・文化の展開や、政治・経済の動向などとも関連しています。そうした背景を意識しつつ、各法思想家の理論と基本的特徴をつかむために、原典に触れつつ解説をします。法思想史Ⅰでは古代から近代までの思想を中心に扱います。

2. 授業の到達目標

- ① 法思想の歴史的な流れを理解することができる。
- ② 現代の法と法思想との関連を把握することができる。
- ③ 講義で得られた知見を、言語化して他者に説明することができる。

3. 成績評価の方法および基準

学期末の論述式試験(80%)を中心に評価します。出席確認を兼ねた感想シートを配布し、内容に応じて加点(20%)をします。

4. 教科書・参考文献

教科書

深田三徳・濱真一郎編著 『よくわかる法哲学・法思想 第2版』2015年 ミネルヴァ書房

適宜レジュメを配布

その他参考文献については、随時お知らせします。

参考文献

大野 達司・森元 拓・吉永 圭著 『近代法思想史入門：本と西洋の交わりから読む』2016年 法律文化社

竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編 『はじめて学ぶ法哲学・法思想—古典で読み解く21のトピック』2010年 ミネルヴァ書房

5. 準備学修の内容

授業の該当箇所の教科書とレジュメ内容などの予習・復習を行ってください。

関心を持った原典については、各自で読み進めるようにしてください。

6. その他履修上の注意事項

内容の連続性から法思想史Ⅱを継続して受講することが望ましいです。

講義中は、他人への迷惑行為および私語を禁じていますので、該当の場合には退室をお願いしています。

7. 授業内容

- | | |
|--------|-----------------------------|
| 【第1回】 | イントロダクション：授業の概要と進め方 法思想史の説明 |
| 【第2回】 | ギリシャ・ローマの法思想 |
| 【第3回】 | 中世・近世の法思想 |
| 【第4回】 | 近代自然法論の特徴と機能(1)ーホッブズ、ロック |
| 【第5回】 | 近代自然法論の特徴と機能(2)ージェファースン、ルソー |
| 【第6回】 | カントとヘーゲルの法思想概観 |
| 【第7回】 | 自然法批判と法実証主義的法思想 |
| 【第8回】 | 分析法学と歴史法学、歴史法学と概念法学 |
| 【第9回】 | 国際社会における法の支配 |
| 【第10回】 | 国家と法の階級性 |
| 【第11回】 | 価値相対主義法哲学ーラートブルフ |
| 【第12回】 | イデオロギー批判と民主主義 |
| 【第13回】 | 日本の法思想の概観 |
| 【第14回】 | 自然法論の概観と法実証主義による批判(1) |
| 【第15回】 | 自然法論の概観と法実証主義による批判(2) |